

## memo Day1

### 大橋さんの講演に対する質疑

Q. サイトサーベイ。西チベットに中国が 12m 望遠鏡を作るという話と EAO の関係は？

A. 予算もついて、走り出している。現状では米国西海岸の大学とコンタクトをとっていてコラボレーションしようとしている。EAO でも話題にはなっているがこの 12m 望遠鏡にコミットしようという議論は行われていない。

Q. EAO として入ってきた場合、どういう入り方になるのか。

A. EAO と言った場合は日本も入る。日本は既にすばるを運用している訳だが、EAO を通して東アジア天文学をどう促進するのかという観点でどうするか考える必要がある。

キャッシュを払うという訳ではないとしても、例えば夜数を secure するとか、少なくとも日本が何もしない形はありえない。

EAO として入ってきた場合は、例えば台湾が個々に入る path がどうなるのか、具体的な

例として PFS へのコンタクトがどうなるか、といった辺りは、考える必要がある。

Q. EAO っていうくくりですばるに参加するのは理想かもしれないが、現実的には足並みが揃っていない段階でやろうとしてもうまくいかないかもしれないのでまずは二国間でやってから機運が盛り上がったら EAO で、という方が現実的なのは。

no guaranteed time policy というのも Paul Ho は言っているが韓国などが納得するとも思えないし。

A. それは確かによく分かる。ただ JCMT では EAO として既にやっている。no guarantee という話も JCMT で実現できている。なぜできているかという large projects を走らせてそこに参加できるという点が大きい。二国間というのは、韓国などは考えている面もあるが、人によって言っている事が違い、KASI 所長は逆に EAO として参加すべきと発言しているという背景もある。コミュニティ全体として足並みが揃っていないという点はあるが少なくとも EAO board level では足並みは揃っていて、LoI も出すに至っている。

C. 台湾と中国については、あくまで PFS に参加しているのはコンソーシアムであり、国・地域のコミュニティ全体ではない。個人で後から加わった人も、あくまでコンソーシアムへまず参加した上で PFS への参加となっている。

C. 非常に外的な要因から国際共同運用に舵を切ることになったが、ポジティブにとらえて

やっていきたい。大型プロジェクトをどうするかは特に考えないといけない。

SSP の枠組はすばるの昨今の現状を想定せずに作られたもの。特に PFS-SSP はみんな関わりたいと思っている。ここをどうするかは PFS チームとも十分に相談をしながら考えていきたい。すばるを運用できないと PFS 観測もできなくなる訳で。

田中さんの講演に対する質疑

Q. ソフトウェアが大事だという事だが、日本と外国で一緒にやって、日本側で人が育て

て  
次は日本で進められるようになるかという点は。あと software engineer は。

A. 日本に経験がなかったがプリンストンには SDSS の経験があった。この経験は我々には

大きかった。もし次があるなら、今回の経験はその下地になろう。

software チームに誰を組み込むかは難しいが、必ず天文学者は必要。ソフトの人だけでは無理。mixture になっているのがよい。

青木さんの講演に対する質疑

Q. ハワイか否かの判断で、8月の判断と10月の判断があるとの事だが。

A. 10月の州の判断が重要で、これがないと確定とはならない。10月まで待つ必要がある。

Q. 10月の判断から工事再開まで半年との事だが、ラバルマになった場合はまたレビューとか

いろいろある事になるのか。

A. ハワイで許可が出た場合は、反対運動などの様子を見ながら進める必要がある。

万一、ハワイで許可が出ない場合は恐らくスペイン側の建設に向けた手続きを進める事になる。

環境影響評価などいろいろあるが、ラバルマになった場合でも半年で工事を開始する。問題は

いつ決断をするか。それが来年3月までずれこんだら4月工事開始とはいかないが。

宮崎さんの講演に対する質疑

Q. ファイバーの場合はエシエルは使わず VPH だけで対応するのか？

A. そうだ。

山本さんの講演に対する質疑

Q. 今のところ国際協力はないとの事だが、競合グループとの連携や競合の状況は？

A. 連携は特にないが、競合という観点では FPGA やコロナグラフの点で優位点がある。

Q. 予算面で問題などは？ それとの関係での国際協力は？

A. コロナグラフの部分は大丈夫だが極限補償光学の部分は予算を十分には確保できていない。

FPGA 開発の部分では国際協力を開始することにしたので、今後は更に各種協力を進めたいと考えている。

山田さんの講演に対する質疑

Q. 2.5m だと HST や WFIRST と同規模なので 300-400 億では取まらないのでは？

あと SPICA が ESA M5 に選ばれなかったらどうなるのか？

A. 日本側はその規模だが、あと ESA 側寄与もあり全体で 1000 億を超える。

もし選ばれなければ、SPICA はいったん終わる。3 つ目の slot は空くので、みんな  
で

考えることになる。2 つ目の selection で落ちたものも候補となるかもしれない。